

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日 2025 年 3 月 14 日

法人（事業所）理念	えがおで咲かせる、ひとりひとりの「できるようこひ」、みんな違ってみんない。	営業時間	9時00分から18時00分
支援方針	<p>個別プログラムを用意し、「できた！」を連続体で見える化 園庭教育に加えて、意見交換会・SST（ソーシャルスキルトレーニング）・知育・運動・っこ遊びなど、多様な個別プログラムを実施。お子様の成長を連絡帳で記録し、見えら化します。</p> <p>コミュニケーションやルールを学ぶ機会を充実 他の人の気持ちを大切にしないから、会話力や社会的ルールを自然に身につけられる環境を作ります。</p> <p>遊びを通して心を豊かに育む 音楽・体操・絵本などを活用し、楽しく情報教育を行います。</p> <p>「サービス」ではなく、「スピスリティ」で寄り添う 一人ひとりに心を込めて接し、お子様の気持ちは寄り添う関わりを大切にします。</p>	送迎実施の有無	あり なし
ねらい		支援内容	具体的な活動や支援内容
健康・生活	<p>(a) 健康状態の維持 健康などを通じて自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態の異なるチャッピと必要な対応を行なう。その後、健康表示が困難であるお子さんの状態の特性及び達成の過程・特徴等に配慮し、小さめサイズから心地の異常にならうよう、さめめから段階的に行なう。</p> <p>(b) 食事・運動等の日常生活の基本的な能力のスムーズな運びをする支援する。また、健康な生活の基本となる食事を豊富に育むことでもあります。また、運動・体力・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下・姿勢保持・呼吸等に関する支援を行なう。さらに、楽しく運動することで、身体の機能を高めます。</p> <p>(c) リハビリテーションの実施 日常生活や社会生活をめざすよう、それぞれのお子さまに適した身体的、精神的、社会的訓練を行う。</p> <p>(d) 痛み緩和等による生活環境を整える 身体の部位に痛みを感じたときに、どのように対応するかを教える。また、痛み緩和の方法を学ぶ。</p> <p>(e) 様式化等により生活環境を整える 生活の中での、さまざまな遊びを通してできるよう支援する。また、障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。</p>		
運動・感覚	<p>(a) 姿勢・運動・動作の基本的技術の向上 日常生活における動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び筋肉・関節の拘離や変形の予防、筋力の維持・強化を行なう。</p> <p>(b) 姿勢・運動・動作の向上の実施 姿勢の維持や運動の向上のための運動指導、姿勢保持装置など、様々な運動器具等の補助的手段を活用してこれらができるよう支援する。</p> <p>(c) 保有する感覚の統合的活用 日々の生活で、様々な感覚を最大限に活用できるよう、遊び等を通して支援する。</p> <p>(d) 保有する感覚の活用 保有する感覚を最大限に活用できるよう、遊び等を通して支援する。</p> <p>(e) 感覚の特性（感覚の過敏や鈍感）への対応 感覚や過敏な特徴（感覚の過敏や鈍感）を踏まえ、感覚の弱いに対する環境調整等の支援を行う。</p>		
本人支援	<p>(a) 認知・行動の活動 視覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を支援を行う。</p> <p>(b) 知覚から行動への認知過程の発達 視覚等の感覚情報をもとに、行動の手順からなる機械の形成。</p> <p>(c) 機械の操作や性質、形、色、音が伝わる性質、空間・時間等の概念の形成</p> <p>(d) 数量・大小、色等の認識 視覚、形の大きさ、色の違い等の富得の手順の支援を行なう。</p> <p>(e) 認知の特徴を活用する 認知の特徴を活用する。自分で入ることで必要な情報を読み取って理解できるよう支援し、認知の弱い等の個々特性に配慮する。また、こだわりや興味食い等の特徴を活用する。</p> <p>(f) 対人や外部環境との適切な対応に適切な行動の習得 対人や外部環境との適切な対応に適切な行動の習得</p>		
言語 コミュニケーション	<p>(a) 言葉の形成と活用 具体的な言葉や文脈との意味を結びつける等により、体系的な言語の獲得、自発的な両声を促す支援を行う。</p> <p>(b) 文字認読・表出表現の支援 読み書きの基礎知識を用いて、手写の書認読をしたり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出する支援を行なう。</p> <p>(c) 人と相手とのコミュニケーションの実践 他人とのコミュニケーションをめざすメッセージを選択し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。</p> <p>(d) コミュニケーション能力の向上 コミュニケーションの手順からなる機械の形成</p>		
人間関係 社会性	<p>(a) 体験の形態と活用 自身の経験や他者の経験を結びつける等により、体系的な言語の獲得、自発的な両声を促す支援を行う。</p> <p>(b) 体験から行動への認知過程の発達 視覚等の感覚情報をもとに、行動の手順からなる機械の形成。</p> <p>(c) 感覚運動的から象徴的への変遷 感覚運動的から象徴的への変遷</p> <p>(d) 意識の発達と行動の習得 意識の発達と行動の習得</p> <p>(e) 対人や外部環境との適切な対応に適切な行動の習得 対人や外部環境との適切な対応に適切な行動の習得</p> <p>(f) コミュニケーション能力の向上 コミュニケーションの手順からなる機械の形成</p>		
家族支援	<p>・個別療育や集団療育にて行った活動の内容を説明(手元資料)や、写真付きでサービス提供内容にてお伝えします。 ・6ヶ月に1回程度、モニタリングは別途お問い合わせの機会を設け、保護者と共に実施できます。 ・個別療育の観察の機会を作り、保護者に対して支援のポイントややり方のヒントカードを行います。</p>		
	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて学校(園)に訪問し、児童との面接や方について情報共有、支援方針を計画します。 ・事業所の子供たちを他施設や組合せに受け入れ、訪問、連絡等で伝え、日々の情報交換を行います。 ・学校(保育園)・幼稚園等への連絡、先生と校園(園)での連絡や事業所での過ごし方の情報共有を行います。 	
地域支援・地域連携	<p>・開催場所で役割分担し、情報を共有を行います。 ・連絡会議を定期的に開催し、情報交換・役割分担に関して協議します。 ・各施設間の連絡を基に、異なる場所での開催の方針や、因にごとに見たいの授業やポイントを共有します。 ・セルフプランの方には利用計画のコディネート申込を主な機能とする会議を実施し、情報共有を行います。</p>		
主な行事等	<p>・季節の行事 ・近隣施設や公園への外出活動</p>		